

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年 10月 16日

【評価実施概要】

事業所番号	2570100731
法人名	株式会社 トランスポート
事業所名	洛和グループホーム石山寺
所在地	〒520-0862 滋賀県大津市平津1-13-33 (電 話) 077-534-2380

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2-1-21 八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成19年9月6日	評価確定日	平成19年11月26日

【情報提供票より】(平成19年8月20日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤	11人 非常勤 5人, 常勤換算 13人

(2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り	
	2 階建ての	1.2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~90,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円
敷 金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(200,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	又は一日	1,700 円	

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	7 名	要介護2	2 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	名		要支援2	名	
年齢	平均 83 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	洛和会音羽病院 音羽クリニック 洛和会訪問看護ステーション石山寺
---------	----------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

洛和会ヘルスケアシステムのグループホームです。目の前には瀬田川が流れ、その向こうには緑濃い山々が連なっています。心和む環境と、緩やかな時間の流れの中で、入居者はゆったりとされています。職員は「好きなことを大事に、できることを大切に」のホーム独自の理念に添ってケアされていて、日々の決まったスケジュールはなく、以前からの趣味を続けてられる方、新たに興味を持ったことをされている方等、それぞれのペースで、自分らしく生活されることを支援しています。入居者と一緒に過ごすことで、職員も多くのことを学び成長できたことを感謝し、支えあう関係ができていますと実感されています。センター方式の活用で、一人ひとりの特徴を理解し、入居者のニーズを引き出したケアプランが作成されています。理念もケアプランに反映されており、「好きなこと、できること」がもっと増えて、生き活きた毎日を送っていただきたいとの気持ちが表われています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の評価で、話し合ったことやアドバイスを、すぐに改善に向けて取り組まれています。今後も第三者の意見も多く聞き、ケアの向上に役立てたいと考えられています。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、管理者とユニットリーダーが、日々のケアを振り返りながら取り組み、自己評価をすることで、グループホームに求められていることを知ることができました。今後は、職員全員で自己評価し、項目を理解しながら、振り返る機会をもたれることを期待します。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議では、ホームからは、取り組み状況や、認知症の話等をし、地域の方々から、貴重な意見や、情報をもらえる機会とされています。今後も、積極的な活用で、地域の一人としての役割を果たれることを期待します。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた個人ごとの手紙を同封しています。様々な意見や要望に応えられるように、家族の訪問の際には、話し合う時間を多く持つようにされ、ホームの玄関には投書箱も設置されており、相談窓口も文書に明確にされています。年に2回、家族アンケートを実施し、家族の満足度や思いを把握する機会にされています。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会に参加し、地域の行事であるお祭りや運動会に参加しています。今後は琵琶湖一斉清掃にも、地域の一人として参加する予定です。地域の方々からホームに来ていただけるような行事等の取り組みを期待します。</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の理念とは別に、ホームとしての職員が考えた「好きなことを大事に、できることを大切に」という、入居者の視点を基にした理念がある。一階リビングにわかりやすく掲示されている。	○	一階だけでなく、二階にも掲示されてはどうでしょうか。今後は、現在の理念に、地域密着型ということを踏まえ、地域での役割という観点からの理念をプラスされると、なおいいのではないのでしょうか。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を介護計画に反映している。職員は、好きなことやできることをたくさんして頂きたいとの気持ちを持ってケアしている。ミーティングで話し合うこともあり、共有が図られている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に参加し、回覧板からの情報で、地域の行事であるお祭りや運動会に参加している。近所のスーパーとは顔なじみの関係ができています。今後は琵琶湖一斉清掃にも、地域の一員として参加する予定である。	○	ホームでの行事を開催し、多くの方々に参加していただけるように、どのような行事ができるのかということを考案中であり、実現を期待する。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価について話し合ったことは、改善に向けてすぐに取り組み、今回の評価は、管理者とユニットリーダーが、日々のケアを振り返りながら取り組まれた。	○	日々のケアを振り返る機会になり、自分たちのケアに自信を持つことにもつながるので、自己評価は職員全員で取り組まれることが望まれる。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、地域包括センターの職員、家族、ホームが集まり、運営推進会議を開催している。ホームの取り組みや、思いを伝えたり、認知症についての話をしたり、事業所からの情報提供の場となっている。また参加者からは様々な意見や思いを聞く機会になっている。	○	今後も、多くの方に参加いただき、ホームを理解してもらい、地域の一員としての役割をはたされることを期待する。

洛和グループホーム石山寺

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>ホーム独自としてはあまりないが、法人としては、行政とは密な連携がある。</p>	○	<p>アドバイスや情報をもらえるよう、ホームとして、運営推進会議の議事録を提出したりしてアピールし、行政との連携を図られることを期待する。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、請求書の送付時には入居者の様子や、状態を書いた手紙を同封している。電話での連絡は頻繁であり、家族の訪問時には、多くの会話を持つようになっている。ホーム独自の季刊誌も作成し家族に送付している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ホームの玄関には投書箱を設置している。ホーム側や行政の相談窓口も文書に明記している。家族には、気軽に話していただけるように働きかけている。年に2回、家族の思いが把握できるように、アンケートも実施し、結果を反映している。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>法人としての異動は致し方ないが、ホームとしては最低限の異動にとどめている。新人採用の際には、研修はもちろんのこと、ホームでも、慣れるまでは入居者とのふれあいの時間を多くとっている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の研修は大変充実していて、順次参加できるようになっている。受講した研修は、ホーム内では、報告書を資料と共に回覧して、共有を図っている。ホーム内の2つのユニットで、職員がローテーションを交代し、いつもと違ったユニットで仕事することも勉強になっている。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の会議や研修に参加し、情報交換している。他事業所の職員や他法人の特養とも交流があり、夏祭りの誘いをもらい参加している。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に見学に来てもらい、他の入居者と一緒に過ごしてもらい、安心して入居してもらっている。法人の相談員が十分な時間をかけて家族と話し合い、入居していただいている。	○	ホームでは、入居前に何日かの体験入居的なことを検討している。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	毎日一緒に過ごしながら、これまで培われた経験をもとに、風習や知識等様々なことを教えていただいている。支えあう関係作りができていて、職員も成長している感じである。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションを大切な時間にし、その中で、入居者の思いを把握している。職員間では、会議等で話し合い情報を共有している。意思疎通が困難な方には、表情で思いを汲み取り、職員間で話し合っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を使ってアセスメントし、入居者の声を引き出し、家族や、本人の意見も希望をとり入れた、ホームでの生活に密着した計画をたてている。医療的なことも介護計画に反映している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにカンファレンスを行い、計画の評価を話し合い、モニタリングにつなげ、見直しをしている。状態の変化にはすぐに対応している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院介助をしたり、個別での外出、近所の美容院への送迎もしている。家族の要望にも充分対応できていると考える。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月2回内科医の往診があり、相談でき、指示ももらえる。そこから、他に受診の紹介をもらっている。歯科通院の時には送迎も可能な歯科を確保している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	ターミナルについては法人での看取り指針があり、入居時に説明し同意をもらっている。その時になれば、家族や、医療機関と相談の上、ホームで緩和ケアをするかどうか話し合い、意向に添って対応したいと考えている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	その方を理解した上で、その方にあった声かけ、接し方をしている。尊厳を傷つけないように心がけている。個人情報保護の観点から、漏洩がないように、記録物は、鍵付きの棚に保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者一人ひとりの思いを把握し、自分のペースで生活されるように支援している。就寝時間や、起床時間、入浴についても自由であり、入居者は、思い思いに過ごされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日の献立は、その日に入居者の希望を聞きながら、職員が考えている。調理、食事、後片付けと、出来る方と一緒にやっている。買い物も一緒にやっている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴時間の決まりはないが、だいたい日中から夕方間に入りたい時に、一人ずつゆっくりと入ってもらっている。夕食後も21時ぐらいまでは可能である。清潔保持のために、拒否される方には清拭や足浴を行っている。毎日入浴することもできる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	得意なことや好きなことをしてもらえるように、その方の好みや、生活歴を把握し、雑巾縫いやパッチワークや絵を描いたり、プリンターの水やり等、力を発揮できるような場面作りをしている。ホームでの入居者の役割が自然とできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物での外出は頻繁で、時には、バスや電車で遠出もしている。希望のない方にも外出を働きかけ、車椅子の方にも、車でお連れしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中の、鍵をかけない時間や施錠時間を毎月の会議で話し合い、入居者の状態や様子をみながら、見守りを強化することで、鍵を掛けない時間を長くすることの話し合いをしている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホーム独自では、2ヶ月に一度避難訓練を実施し、確認し合っている。年に一度は消防署との協力での避難訓練もしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量、水分摂取量は把握し記録に残している。摂取困難な方には、おかゆにしたり、キザミにしている。テーブルの上には何時もお茶が置いてあり、すぐに飲むことができる。毎回検食簿もつけていて、栄養バランスについて法人の栄養士にアドバイスをもらう体制がある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者が書かれた絵や、季節を感じる物、昔懐かしい物、観葉植物等を飾り、温かい居心地のいいホーム作りをされている。玄関には談話コーナーが設けてあり、各ユニットの交流スペースとなっている。	○	廊下が広く、椅子やソファを配置し、一人になれる空間や休憩できる場所の確保がされていますが、ソファにファブリックを掛ける等、一工夫されたらなおいいのではないのでしょうか。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッドや布団、テレビ、仏壇、好みの装飾品等、使いたなじみの物やこだわりの物を持ってきてもらい、その人らしい居心地の良い居室作りをされている。新しい物でも、長く使われることでなじみの物になっている。		